

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ES11A004	授業での学習支援と指導法に関する事例分析(Case analysis on Educational Methods and Support in Class)					共通科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 森才三、立川研一、市原靖士 E-mail mori-saizou@oita-u.ac.jp ken-tatsukawa@oita-u.ac.jp ichihara-yasushi@oita-u.ac. 内線 森6133、立川6139、市原7587						
授業の概要	・本授業においては、授業での学習支援と指導法に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	確かな学力の形成を促すための指導法について深く理解する											
目標2	確かな学力の形成を促す学習集団の構成に関する実践的知識について深く理解する											
目標3	各教科等の評価の基準を策定し、学力を適切に評価するための原理について深く理解する											
目標4	ICTを活用した指導法について深く理解する											
目標5	学校現場の事例を題材として現状の課題を発見することができる											
目標6	現状の課題に対する具体的な対応策を立案・検討することができる											
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	授業テーマに関する学校の具体的な課題の理解(担当:森 才三、市原靖士、立川研一)											
2	確かな学力の形成を促す指導法と授業実践例による分析研究-全体指導を中心に(担当:森 才三、立川研一)											
3	確かな学力の形成を促す指導法と授業実践例による分析研究-グループ別指導を中心に(担当:森 才三、立川研一)											
4	確かな学力の形成を促す指導法と授業実践例による分析研究-個別指導を中心に(担当:森 才三、立川研一)											
5	フィールドワーク(担当:森 才三、市原靖士)											
6	確かな学力の形成を促す学習集団構成の原理(担当:森 才三、立川研一)											
7	確かな学力の形成を促す学習集団構成の授業事例分析(担当:森 才三、立川研一)											
8	確かな学力の形成を促す学習集団の構成を取り入れた授業の立案と討議(担当:森 才三、立川研一)											
9	評価の基準策定の原理と事例分析(担当:森 才三、立川研一)											
10	学力評価法の原理と事例分析(担当:森 才三、立川研一)											
11	評価の基準策定と学力評価法に関する実践的演習と討議(担当:森 才三、立川研一)											
12	フィールドワーク(担当:森 才三、市原靖士)											
13	ICTを活用した指導法の原理と事例分析(担当:森 才三、市原靖士)											
14	ICTを活用した指導法の実践的演習と討議(担当:森 才三、市原靖士)											
15	全体を通じた学習成果の発表と総括(担当:森 才三、市原靖士、立川研一)											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業において設定する演習では、現職院生と学部卒院生とのペアワーク、グループワーク、討論など、アクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。			工夫 その他							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	次時の学習内容に関する予習および事前準備(資料収集、資料・文献精読など)(10~20h)										
	事後 学修	演習において討議したことを整理しまとめるとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、自己の学修到達点を明確にする。(10~20h)										
教科書	特になし。授業中に指示する。											
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加等)	70%										
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%										
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教を請うこと。											
備考	・事例分析等においては各分析について卒院生・現職院生の混合のグループで議論し合うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。											
リンク	URL											